

林 土 連

NO. 280
RINDOREN KAIHO



令和8年度林土連定時総会

主な記事

令和8年度林土連定時総会
第1回理事会
会員からの声



令和8年度 林土連定時総会を開催

令和8年2月17日(火)東京都内のホテルにおいて、令和8年度林土連定時総会を開催しました。

定時総会には、全国から約160名の会員の皆さまに参集いただくとともに、ご来賓として森林整備・治山事業促進議員連盟会長の山口俊一衆議院議員、林野庁から国有林野部の長崎屋圭太郎長をはじめとする林野庁幹部の皆さま、日頃からお世話になっている林業関係団体の皆さまにご臨席を賜りました。

また、定時総会に併せて開催した林土連会長表彰授与式及び林野庁治山・林道工事コンクール受賞者報告会には、小坂善太郎林野庁長官にご臨席いただきご挨拶を賜りました。

定時総会は、木下 修副会長の開会のことばのあと、新谷龍一郎会長が「森林土木事業については、山間奥地という厳しい施工条件の下での工事に加え、近年の建設資材の価格高騰などもあり、これまで



新谷龍一郎会長



山口俊一議連会長



長崎屋国有林野部長



島田日本林業協会会長

上に厳しい環境の元での企業経営となっている。このような中、令和8年度の林野公共事業予算については、増額が確保される見込みとなったことに対し感謝申し上げます。林土連では、第1次国土強靱化実施中期計画が策定されたことや山地災害危険地区が約21万箇所が増加したことなどを踏まえ、今後とも地域住民の安全・安心を守るため、適切な事業の実施に尽力してまいります。会員及び関係者の皆さまには、引き続きのご支援とご協力をお願いしたい」と挨拶しました。

また、来賓の山口俊一議連会長からは、「令和8年度の林野公共事業予算については、関係者の皆さんの協力をいただく中、昨年度を上回る額を確保することができた。しかしながら最近の人件費や資材価格の高騰により、これでは足りないということにもなりかねない。今後とも必要な事業量に見合う予算をしっかりと確保していきたい」旨のご挨拶をいただきました。

続いて、林野庁の長崎屋国有林野部長から「毎年のように豪雨や地震等に起因する山地災害が発生しており、改めて事前防災、予防治山

対策の重要性が認識されている。林野庁としては国民の生命・財産を守り、国土を保全すべく治山対策の強化と森林資源の循環利用や国土強靱化に資する林道の開設・改良を計画的に推進している。また、担い手不足や資材価格の高騰など、建設業界を巡る厳しい状況をしっかりと認識し、森林土木工事が選んでもらえるように、引き続き受注環境の改善に向けた取り組みを強化したい」旨のご挨拶をいただきました。



河津議長

また、日本林業協会の島田泰助会長から、「各地で頻発する大規模な山地災害等への確に対応するため、「緑の国土強靱化」の必要性がこれまで以上に認識され始めている。我々林業団体としても、低炭素社会に向けた木の都市づくりや災害に強い森林づくりに対する国民の理解・支援が更に大きなものとなるよう取り組んでいきたい」旨のご挨拶をいただきました。

その後、議長に東京林業土木協会の河津市元会長を選出して議事が進められました。第1号議案の「令和7年度事業報告及び決算について」は、堂本専務理事から説明があり、続いて水本監事から監査報告が行われ、全会一致で承認されました。また、参考として先の理事会で決定した「令和8年度事業計画及び予算」について説明されました。続く第2号議案「役員の変更について」は、すでに理事会で選定されていた理事候補者15名及び監事候補者2名が異議なく選任されま

した。今回の改選で新たに、九州林業土木協会の牟田正明会長が理事に、東京林業土木協会の植野 正副会長と名古屋林業土木協会の安藤和央副会長が監事に就任しました。

第3号議案「その他」については、出席者から特段の提起はなかったため、議長は議事の終了を宣言しました。最後に、田中 進副会長が閉会のことばを述べて定時総会を終了しました。

令和8年度第2回理事会を開催

定時総会終了後、第2回理事会を同会場内において開催し、新たな林土連の三役を決定しました。会長に嶋崎勝昭理事（新任）、副会長に田中 進理事（留任）、三尾秀和理事（新任）、戸沼 淳理事（新任）、専務理事に堂本 整理事（留任）が選任されました。定時総会及び第2回理事会を経て選任された新しい役員は次のとおりです。

会 長	嶋崎 勝昭	(一社)	四国林業土木協会
副会長	田中 進	(一社)	青森林業土木協会
副会長	三尾 秀和	(一社)	名古屋林業土木協会
副会長	戸沼 淳	(一社)	函館林業土木協会
理 事	新谷 龍一郎	(一社)	旭川林業土木協会
理 事	五十嵐 龍	(一社)	北見林業土木協会
理 事	萩原 一利	(一社)	帯広林業土木協会
理 事	岸本 真一	(一社)	札幌林業土木協会

理事	那須 正	(二社)	秋田林業土木協会
理事	鈴木 秀城	(二社)	前橋林業土木協会
理事	河津 市元	(二社)	東京林業土木協会
理事	木下 修	(二社)	長野林業土木協会
理事	泉 巖	(二社)	大阪林業土木協会
理事	牟田 正明	(二社)	九州林業土木協会
専務理事	堂本 整	(二社)	日本林業土木連合協会
監事	植野 正	(二社)	東京林業土木協会
監事	安藤 和央	(二社)	名古屋林業土木協会

林土連会長表彰及び林野庁治山・林道
工事コンクール受賞者報告会の開催

定時総会に併せて林土連会長表彰授与式及び林野庁治山・林道工事コンクール受賞者報告会を開催しました。最初に長年にわたって協会の発展に寄与した19名の方々に林土連新谷会長から表彰状が授与されました。

続いて、定時総会当日の午前中に林野庁で実施された令和7年度林野庁治山・林道工事コンクールの表彰式において、農林水産大臣賞2点、林野庁長官賞24点を受賞された方々について報告を行いました。

最後に、林土連会長表彰受賞者を代表して海老原 孝氏（函館林業土木協会）、林野庁治山・林道工事コンクールの受賞者を代表して治山の部で農林水産大臣賞を受賞した廣濱建設株式会社の米田祐司氏（大阪林業土木協会）からそれぞれ、今回の受賞を契機にさらに技術



林土連会長賞の授与



謝辞を述べる海老原氏



小坂林野庁長官の祝辞



謝辞を述べる米田氏

の研鑽などに務めたいとの御礼のことばがありました。各賞を受賞された皆さまには、心よりお祝いを申し上げますとともに、今後、益々のご活躍を祈念申し上げます。各賞の受賞者は次のとおりです。

各賞受賞者

(協会名、企業等名、氏名(敬称略)の順に掲載)

○ 林土連会長表彰受賞者(19名)

▽旭川、株式会社飯島組、大塚仁志▽北見、株式会社菊地組、菊地裕
 暁▽帯広、株式会社畑下組、高橋正幸▽札幌、一般社団法人札幌林業



林土連会長表彰受賞者の皆さん

土木協会、佐藤次夫▽函館、株式会社海老原建設、海老原 孝▽青森、
 工藤建設株式会社、蜂谷剛司▽秋田、株式会社金丸建設、伊藤靖幸▽
 前橋、株式会社後藤組、後藤幸洋▽前橋、南波建設株式会社、南波将
 彦▽東京、株式会社鈴木組、杉浦要一▽長野、川瀬建設株式会社、川
 瀬雄一▽長野、株式会社竹花組、矢野健太郎▽名古屋、中越興業株式
 会社、山下 博▽名古屋、株式会社加藤工務店、加藤政太郎▽大阪、
 株式会社長田組、長田道典▽大阪、株式会社風組、風 尚樹▽四国、
 片田丸吉建設工業株式会社、山崎秀治▽九州、大政建設株式会社、森
 山澄江▽九州、株式会社七組、岩本倫尚

○ 林野庁治山・林道工事コンクール

治山工事

「農林水産大臣賞」 1名

▽大阪、廣濱建設株式会社、米田祐司

「林野庁長官賞」 12名

▽旭川、株式会社西岡建設、加藤健一▽北見、大同産業開発株式会社、
 今野政男▽帯広、栗林建設株式会社、河西健一▽函館、田島緑地前川
 コルポラツション株式会社、田島義史▽青森、田中建設工業株式会社、
 田中 進▽秋田、村山建設株式会社、村山文也▽前橋、株式会社加藤
 組、加藤善典▽東京、佐野藤建設株式会社、佐野哲也▽名古屋、加藤
 土木株式会社、加藤 勝▽大阪、八峯建設株式会社、片岡直和▽四国、
 湯浅建設株式会社、湯浅雅喜▽九州、株式会社坂下組、坂下利一郎

林道工事

「農林水産大臣賞」 1名

▽旭川、新谷建設株式会社、新谷逸生

「林野庁長官賞」 12名

▽北見、鐘ヶ江建設株式会社、高橋廣志▽帯広、小針土建株式会社、小針武志▽札幌、株式会社勝田組、金澤政章▽函館、渡辺建設株式会



林野庁治山・林道工事コンクール（治山工事の部）受賞者の皆さん



林野庁治山・林道工事コンクール（林道工事の部）受賞者の皆さん

社、渡辺一史▽青森、株式会社山下組、菅原陽一▽秋田、山科建設株式会社、山科 優▽東京、小野建設株式会社、小野大和▽長野、大宗土建株式会社、杉山一樹▽名古屋、ナガイ株式会社、村上 勉▽四国、有限公司松元建設、松元秀人▽四国、魚梁瀬産業有限公司、五百藏文太▽九州、株式会社大坪建設、石原 堅

定時総会及び関連行事終了後に懇親会を開催

林土連定時総会及び林土連会長表彰授与式並びに林野庁治山・林道工事コンクール受賞者報告会終了後、多くのご来賓をお招きして懇親会を開催しました。

冒頭、嶋崎勝昭新会長の開会挨拶の後、多くの国会議員の先生方から力強い激励のお言葉をいただきました。

また、林野庁幹部の皆さま、関係団体の皆さまにも多数のご出席をいただきました。

ご来賓いただいた皆さまに深く感謝を申し上げます。



嶋崎新会長の挨拶



懇親会の様子

令和8年度第1回理事会を開催

1月22日（木）海運クラブにおいて令和8年度第1回理事会を開催しました。

理事会では、冒頭、新谷龍一郎会長から「令和8年度の当初予算が概算決定され、林野公共事業費は、令和7年度補正予算と合わせて2814億円を確保できる見通しとなった。予算の確保に尽力いただいた各協会、その他関係者に感謝申し上げます。国内の経済は緩やかな回復傾向にあると言われているが、我々の業界だけが取り残されることのないよう、予算の確保はもとより、業界のイメージアップや労働生産性の向上にしっかり取り組んで行くので引き続きの協力をお願いしたい」との挨拶がありました。

林野庁国有林野部の長崎屋圭太郎長からは「令和8年度予算要求に



新谷会長の挨拶



長崎屋国有林野部長の挨拶

ことから、今後は必要な事業量の確保も考えながら予算編成に努めていきたい。また、選ばれる森林土木に関し、歩掛に関する実態調査を行っており、調査結果を踏まえた改正を行う予定。森林管理局へのキャラバンなどを通じて現場への確実な周知を進めたいのでよろしくお願いしたい」旨のご挨拶をいただきました。



理事会の様子

理事会での主な協議事項は次のとおりです。

(1) 令和7年度事業報告及び決算(案)について

令和7年度事業報告及び決算(案)の説明及び監事からの監査報告が行われ、提案どおり了承されました。

(2) 令和8年度事業計画及び予算の一部修正(案)について

令和7年度の決算確定に伴う予算の一部修正について説明があり、提案どおり決定されました。

(3) 役員の変更について

役員選考委員会で決定した三役の候補者案を第2回理事会に提出することです承されました。

(4) 令和9年度林土連技術現地研修会について

令和9年度の林土連技術現地研修会については、四国林業土木協会管内での開催が提案され、提案どおり決定されました。

このほか、堂本専務理事から、

- ① 令和7年度コンプライアンスに関する活動報告
- ② 令和8年度コンプライアンス委員会事業計画
- ③ 今後の行事予定

などについて説明を行いました。

理事会終了後は、林野庁業務課の藤原 司企画官より所管事項についてご説明をいただいた後、奥能登地区山地災害復旧対策室の尾木浩典室長より令和6年度能登半島地震及び奥能登豪雨による被害と復旧対策について講演をいただきました。

ご多忙の中、ご出席いただきご説明をいただいた林野庁の皆さまに改めて御礼を申し上げます。



林野庁業務課 藤原企画官



尾木復旧対策室長の講演

会員からの声

「地域の守り手」として奮闘中！

湯浅建設 株式会社

代表取締役社長 湯浅雅喜

(四国林業土木協会)

弊社は高知県安芸郡馬路村魚梁瀬という地域で、高知市内から車で約二時間程かかる場所にあります。今では「柚子ポン酢」や「ごっくん馬路村」などの柚子製品ですっかりお馴染みの馬路村ですが、村の総面積の約九十六%を山林が占め、日本三大美林の一つである「魚梁瀬杉」を有する林業の村として発展してきました。

かつて魚梁瀬地区には、のちの林野庁長官となる人材が赴任してくるような全国を代表する大きな営林署があり、昭和三十年代には千人を超える人々が魚梁瀬地区で生活し、多くの住民が林業に携わっていました。

しかし、昭和三十八年の魚梁瀬ダムの建設による集落の水没に始



馬路村魚梁瀬地区

まり、長く続く木材不況などによる林業の衰退、平成十一年には魚梁瀬営林署が廃止されたことなどにより、現在は百人ちよつとの集落に なってしまいました。

弊社は、そんな魚梁瀬地区で土木建設業者として地域の皆様に支えられながら、本年度で設立五十七年を迎えようとしています。

生コンクリートの製造販売、産業廃棄物処理の子会社を含め社員は約四十名で、主に森林管理署発注の治山・林道工事を中心に、県道や村道の防災、災害復旧などの地域インフラの整備工事を受注・施工しています。

これ以上ないくらい僻地にある建設会社ですが、時代の波はどこにいても等しく押し寄せてきます。デジタル化が進み、測量などの作業はここ数年で大きく様変わりしました。

弊社は早期からデジタル化に取り組んだため、当初は年配の技術者や技能者にとっては多くの負担になるのではと感じていました。しかし、現場からは「楽になった」という声が多く、測量で使うある機器



千本山の魚梁瀬スギ

は、「もうこれがないとようせん」と言うまでになっています。

なんとか時代についていかなくは、という思いでしたが、社員の方が時代の先端を走ってやろうという気概をもって取り組んでくれて、大変頼もしく、また、うれしく感じています。

そういった変革のなかでも、昔から変わらなず弊社が重要視している仕事の一つに、県道の緊急対応工事があります。馬路村の入口から魚梁瀬地区までの道のりは県道魚梁瀬公園線の一本道しかありません。年間降水量が四千ミリを超える日本有数の降水量を記録する地域でもあることから、落石、土砂崩れなどによる通行止めが頻繁に発生します。そうなるとこの地域は完全に陸の孤島となります。

夜中に「木が倒れて道が通れん、帰れんきなんとかして」なんてこともあります。そこで弊社の出番です。直ちに建設機械を現地に搬入し、早期の通行確保を図ります。

こういった局面で臨機応変に対応できる技術力は、長年にわたり森林土木工事で山と向き合ってきた経験の積み重ねによつて培われたものです。時間に追われる厳しい作業ではありますが、地域から「頼りにされている」と実感するとともに、長年お世話になってきた地域への恩返しとの思いで日々業務に励んでおります。

全国の林業土木協会会員企業の皆様の中には、弊社と似た環境の方も多いのではないのでしょうか。

近年は、どの業界においても同様の課題を抱えているかと存じますが、やはり人手不足には一層拍車がかかってきました。その対策として、弊社も週休二日制や賃金アップ、デジタル化による省力化などに取り組んでいます。高知市内から遠く離れた中山間地域に拠点を置

き、現場条件の厳しい森林土木工事が中心の弊社にとって人材確保はより厳しい状況です。しかしながら、森林土木工事の技術継承を途絶えさせるわけにはいきません。現場条件の厳しさ故に、特殊な技術・技能を求められる場面が多く、またその技術・技能は一朝一夕に習得できるものではありません。

職場環境の更なる改善、新技術の導入、効率化を図り、なんとか次世代へ繋いでいくことが弊社の重要な使命だと思つとともに、地域の守り手として、地域の明日を築き、支えていく建設会社であり続けたいと考えています。



令和7年度林野庁長官賞を受賞した治山工事

林野庁治山・林道工事コンクール

農林水産大臣賞受賞工事の紹介

○ 黒瀬（ケ―22ほか） 溪間工事

施工者 廣濱建設株式会社（大阪林業土木協会）

各種作業においてICTを活用し、計画的な工程管理や施工管理を行い施工性、安全性及び精度の向上が図られていました。生産性向上に向けた取組としては、レールに沿って型枠や足場を上昇させることが可能なスライド式型枠を採用し、型枠を転用する際の解体・再設置の省力化が図られていました。また、地域社会貢献としてはICT施工に関する見学会を発注者及び他の事業者を対象に実施し、ICT施工の効果について共有が図られていました。（令和7年度治山・林道工事コンクール審査の経過紹介」より）



コンクリート谷止工2基



第9号コンクリート谷止工

○ 奥名寄林道災害復旧工事

施工者 新谷建設株式会社（旭川林業土木協会）

各種作業でICTを活用し、計画的な工程管理や施工管理を行い、施工性、安全性及び精度の向上が図られていました。生産性向上に向けた取組としては、大型のコンクリート圧送車を使用することにより打設時の移動を軽減し、作業の効率化が図られていました。また、現場環境改善にも工夫が見られ、施工現場にスターリンクを設置し、通信環境を確保することで、高性能クラウドLTEカメラの使用を可能とし、会社等と常時現場映像を共有し、安全管理の徹底が図られていました。（令和7年度治山・林道工事コンクール審査の経過紹介」より）



1号箇所



2号箇所

